

論点

申部太平洋での核実験による被害の全容解明と補償を (上)

野口 邦和 (常任世話人・前日本大学准教授(放射線防護学))

はじめに

1954年のビキニ水爆被災事件から71年経ちましたが、今日においても太平洋で行われた核実験に起因する被害の全容は未解明なままであり、被害者の救済は行われていません。それどころか私たちが忘れてかかっていた、広島・長崎・ビキニに次ぐ58年の海上保安庁の測量船「択洋」と巡視船「さつま」乗組員に

関する「第四の被曝」事件の存在をNHK大阪放送局が掘り起こし、それまでに得た取材内容をまとめて、2024年9月15日にNHKスペシャル「第四の被曝」なぜ夫は死んだのか」を放送しました。放送するや否や視聴者から大きな反響があり、当該番組の制作を主導したチーフ・ディレクターはあまりの反響の大きさに驚いたそうです。このディレクターによれば、

放送後に得た取材内容をもとに「第四の被曝」の続編も考えているとのことですが。被災71年2025年3・1ビキニデー集会において、筆者は特別企画「核被害の全容解明、補償と救済、核兵器の全面禁止を求めて」のコーディネーターを務めるとともに、「太平洋における核実験被害の全容解明と補償を」の演題で報告しました。この報告

は、主にアメリカが中部太平洋上で行った核実験について改めて振り返り、日本政府と加害国政府に対し、被害の全容解明と被災者に対する補償を重ねて要求したものです。アメリカが1945年7月16日にニューメキシコ州で世界初の核実験を行って以来、核保有国は世界で計

「核兵器のない世界」へ、歩こう

「被爆80年、核兵器も戦争もない平和な世界をつくらう」などの共通スローガンを掲げて、被爆地広島、長崎をめざす2025年原水爆禁止国民平和行進が始まります。

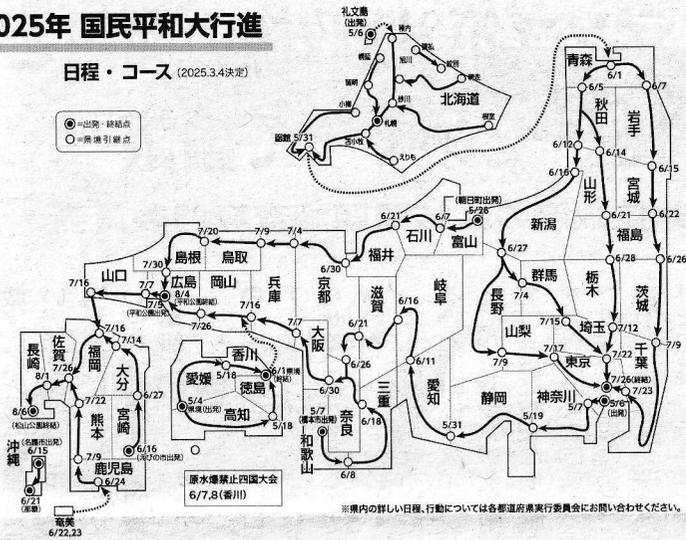
対話は日本を変える力だと訴え、国民平和行進の成功に向けた奮闘を呼びかけました。平和行進は全国幹線コースで実施し、すべての自治体を網羅する網の目の平和行進と要請行動などに取り組みとしています。

1に調査団を派遣し、本民医連の医師が健康などを行いました。また、フィジー核実験被曝復士の会の代表が09年の爆禁止世界大会で被害を訴えていましたが、ながら詳細は今も不明が多いのです。

2025年 国民平和行進

日程・コース (2025.3.4決定)

●出発・終結点 ○乗換引継点



※案内の詳細な日程、行動については各都道府県実行委員会にお問い合わせください。

同中央実行委員会の結成総会でありさつした高草木博世界大会実行委員会運営委員会共同代表は、ことしの目標は、①日本の核兵器禁止条約参加を現実のものにすること、②そのための力ぎは被爆者で、自らの命をかけてたち向かった人たちの思いを聞きくこと、③実現するには政治を変えるしかない。署名と

進に参加しましょう。コースは、5月6日北海道↓東京(4コース終結)、5月6日東京↓広島、5月7日和歌山↓広島、5月28日富山↓広島、5月4日高知・愛媛↓徳島・香川↓広島、6月16日宮崎↓長崎、6月15日沖縄↓長崎、7月5日広島↓長崎で実施し、8月6日長崎(終結)です。一歩でも二歩でも平和行進に参加しましょう。

2400回超の核実験つてきました。コンピタ・シミュレーション使した未臨界核実験(前核実験)の技術が確るまで、核実験(核爆)は核弾頭技術の改不可欠の役割を演じてした。《イギリス》イギリスは57年5に中部太平洋上のモト島で3回(総爆発威力・22メガトン)、57年58年9月にクリスマで6回の大気圏内核(同6・65メガトン)しました。すべて空中でした。イギリスはものことフィジー、オトラリア、ニュージードから動員された軍人験に参加しました。2年に日本原水協はフ